



晴れた日の 画廊にて

10月21日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

10月21日のおはなし「晴れた日の画廊にて」

午前中の打ち合わせが予定よりずいぶん早く済んで、空いているうちにとお店に入ったのだが、ランチを終えて、メイクを直してもまだお昼まで30分以上もあった。会社にはまだ戻らなくてもいい。すぐに戻っても憂鬱なことしか待っていない。だから1時間だけ何か気晴らしをすることに決めた。

もうすぐ梅雨入りということだが、今日からはからりと晴れて爽やかないい天気だ。考えたらこの半年間、お日様を浴びてのんびり歩いたことなんてついぞなかった。土日も作業に追われているし、移動はほとんど上司と一緒にタクシーだったし、明け方まで資料をつくってフレックスで半日寝て過ごし、午後イチには会社に着いてまた同じことの繰り返し。青空の下で時間に追われずゆっくり歩いたり立ち止まったり、ただそれだけのことがびっくりするくらい貴重で新鮮に感じられる。どうかしてるよ、ほんと。ショウウィンドウを冷やかしながらぶらぶらと歩く。歩きやすいパンプスを履いてきて良かった。銀座のはずれ、新橋にほど近いそのギャラリーの前に貼られたポスターが気になって、ちょっと入ってみることにする。

最初、そこではアンティーク趣味の日用品コレクションを展示しているのかと思う。広口のガラス瓶。鈍く銀色に光る刃物類。深みのある色調の木彫工芸品。ブリキの玩具。時代を経た包装の商品パッケージ。でもよく見るとそれはすべてごく最近の年号が記された作品たちで、いわば生まれたての骨董品たちなのだ。

例えば〈微笑鏡〉という商品のパッケージがある。20cm立方のほどの箱で、鏡を正八面体に組み合わせたものの写真が印刷されている。そして箱には「極上の微笑みを3年分封じ込めました」などを書いてある。いったいどういう商品なんだ？と突っ込みたくなる。けれどそのいかがわしさと、精緻に作り込まれたデザインを（いや、ここは「意匠を」というべきかもしれない）見ているうちに、なんだかその鏡が欲しくなってくるから不思議だ。

杖を非常に小さくしたものには、かわいい羽根がついていて、先が針になっていて、〈杖杖バエ〉と商品名が書いてある。「眠れぬ夜はこのひと刺しでたちまち熟睡」なんてキャッチコピーも（「惹句」と記すべきかもしれない）ついている。アフリカ睡眠病を媒介するツェツェ蠅をもじったダジャレだ！

おかしくなってきた、にやにやししながら作品を見て回る。こういう遊び心が一杯の展覧会ってよくあるんだろうか。だったらもっと足を運ぼう。それも人を誘って。ひとりで見ているのはもったいない。誰かとツッコミを入れながら楽しめたらどんなにいいだろう。気の利いた冗談を言える男子。セクハラ上司なんかじゃなく。

ちょっと奥まった、別室のようになったコーナーの奥にすえた展示台に、顕微鏡がぽつんとひとつきり置いてある。覗いてみるととても精巧に出来た太鼓が見える。横にはこれまた小さな紙に小さな小さな字で書かれたのであろうメッセージが読める。もっとも、顕微鏡の視野の中ではとても大きくくっきりと読めるのだけれど。“Bang me, if you can”。それが作品タイトルでもあるらしい。叩けるものなら叩いて見ろってことだろうか。気づくとプレパラートのすぐ脇に小さなレバーがついていてこれを動かすと、やがて画面の中にドラムスティックが見えてくる。

なるほど。これで上手に叩けるかどうかやってみろってことなわけね。いいわ。やってみようじゃないの。そろりそろりとスティックを動かして、ちょっとひねりを入れてみる。いける！その瞬間。

どおーん！

と、雷鳴のような大きな音が轟き、心臓が一瞬止まる。それから一拍あって新たな鼓動が始まる。再び全身に送り込み始める。その瞬間ぱちんとはぜる音がして、突然視界が広がる。気が

つくとすぐ隣に彼が立ってにこにこことこちらを覗きこんでいる。

「ほらね。小さな太鼓は大きく鳴る。大きな太鼓は秘やかに鳴る。言ったとおりだろう？」あっけにとられていると彼はにこにこしながらこう続けた。「忘れちゃったかな。無理もないよね。あれからざっと500年くらい経っちゃったし。じゃあ椿屋でカフェーでもいただきながら説明してあげよう」

(「太鼓」 ordered by 花おり-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたならぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブックログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできるのですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じをご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ほくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

晴れた日の画廊にて

<http://p.booklog.jp/book/35358>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35358>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35358>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.